

**製品名: DPYD ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10142**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	120kDa

**抗原情報**

遺伝子名	DPYD
別名	DPYD; Dihydropyrimidine dehydrogenase [NADP(+)]; DHPDHase; DPD; Dihydrothymine dehydrogenase; Dihydrouracil dehydrogenase
遺伝子 ID	1806.0
SwissProt ID	Q12882
免疫原	抗血清はヒト DPYD の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 351-400

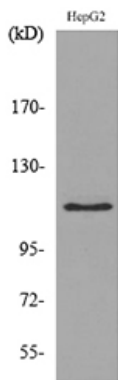
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質はピリミジン分解酵素であり、ウラシルおよびチミジン分解経路における初期かつ律速因子である。この遺伝子の変異は、ジヒドロピリミジン脱水素酵素欠損、チミン-ウラシル尿症に関連するピリミジン代謝異常、および5-フルオロウラシル化学療法を受ける癌患者における毒性リスクの増大を引き起こす。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2009年5月]、触媒活性: 5,6-ジヒドロウラシル + NADP(+) = ウラシル + NADPH、補因子: 2つの4Fe-4Sクラスターに結合する。分子あたり約33個の鉄原子を含みます。、補因子:2つのFADに結合します。、補因子:2つのFMNに結合します。、疾患:DPYDの欠陥は、ジヒドロピリミジン脱水素酵素欠損症 (DPYD 欠損症) [MIM:274270]の原因です。遺伝性チミンウラシル尿症または家族性ピリミジン血症としても知られています。DPYD欠損症は、過剰なウラシル、チミン、および5-ヒドロキシメチルウラシルの尿中への持続的な排泄を特徴とする疾患です。この疾患の患者は、抗癌剤である5-フルオロウラシルに対して重篤な反応を示します。この反応には、口内炎、白血球減少症、血小板減少症、脱毛、下痢、発熱、著しい体重減少、小脳失調症、神経症状が含まれ、半昏睡に進行する。、機能: ピリミジン塩基の分解に関与する。ウラシルとチミンの還元を触媒する。また、化学療法薬である5-フルオロウラシルの分解にも関与する。、経路: アミノ酸生合成;  $\beta$ -アラニン生合成。、類似性: ジヒドロピリミジン脱水素酵素ファミリーに属する。、類似性: 3つの4Fe-4Sフェレドキシン型ドメインを含む。、サブユニット: ホモ二量体。、組織特異性: ほとんどの組織に存在し、肝臓と末梢血単核細胞で最も活性が高い。、

## 研究分野

ピリミジン代謝、 $\beta$ -アラニン代謝、パントテン酸およびCoA生合成、薬物代謝

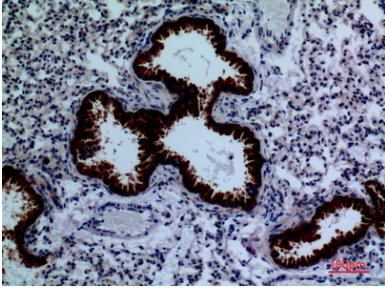
## 画像データ



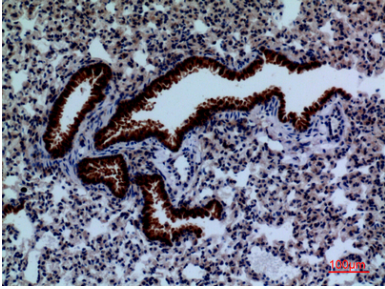
DPYD抗体を使用したHepG2細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



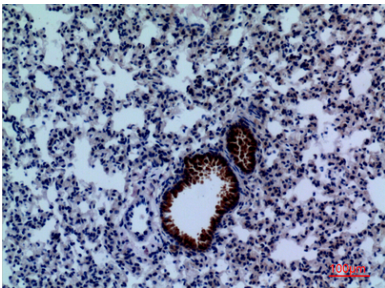
DPYDポリクローナル抗体を用いたHepG2細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は1:20000に希釈された。



パラフィン包埋マウス肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された